

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行：関西学生サッカー連盟
2009年10月17日発行 第13号

JUFA Kansai

第87回関西学生サッカーリーグ
2009年10月17日(土) 後期4節

関西学生サッカーリーグ 後期 第4節



快勝で首位再浮上！

写真：関学大
(中央：2点目アシストの阿部裕之選手)

第3節 関学大-京産大 より

Photo: UNN関西学生報道連盟

前節、首位浮上の同大のゲームが延期になった関係でますます星計算が難しくなった。
リーグはかわらず混戦模様・・・。2度目の中断期間を空けた各チームの戦いぶりは如何に!?

■@大阪長居第2陸上競技場<第1試合> 11:30 Kick off 関学大-阪南大

関学大、志田野雄一朗は、「勝つために中身の濃いトレーニングを積みたい」と前期黒星を喫した阪南大戦へと意気込む。3連勝の勢いそのままに勝利をつかみたいところ。対する阪南大。連続完封が続くだけに、東浩史主将も「まずはしっかり守ってから。でも上位が負けないので、勝ち点3は絶対に獲る」と力強い。勝敗は如何に。

<第2試合> 14:00 Kick off 桃山大-大産大

後期、波に乗れない桃山大。攻撃面を期待されて起用されている須ノ又論も「シュートの冷静さを身につけないといけない」と課題を挙げながらも、攻撃自体には自信を見せる。一方、大産大は前期リーグで勝利した桃山大との対戦。櫛引実監督は「今日(びわこ大戦)のようだったら勝てる」と連勝に自信を見せた。

■@野洲川歴史公園サッカー場ビックレイクC<第1試合> 11:30 Kick off 立命大-京産大

「京産大はやりにくい相手。長いボールを蹴られるかもしれないが、焦れて間延びしないようにしたい」と立命大、米田隆監督は京産大を警戒。福本尚純主将は「失点ゼロで来ているのは自信になっている」と自信も見せる。対するのは2連敗を喫し、最下位へと転落した京産大。だが、「試合を通じては良かった」と古井裕之監督が手ごたえを感じたのも確か。立命大に勝利し、最下位脱出を図れるか。

<第2試合> 14:00 Kick off 同 大-びわこ大

前節、新型インフルエンザの影響を受け急きょ試合延期となった同大。「いいリズムで来てただけに長いブランクは正直ショック」とは望月慎之監督。しかし、本音は「(状況は関係なく)一戦一戦大切に戦うだけ」(望月監督)。荒堀謙次も「同志社らしい良いサッカーをして勝ちたい!」と一言でびわこ戦に臨む。一方、前節、4失点を喫したびわこ大。望月聡監督は「守備を安定させる」と連敗脱出に向け、意欲を見せた。まずは3試合で11失点の守備を立て直したい。

■@鶴見緑地球技場<第1試合> 11:30 Kick off 大院大-大教大

新型インフルエンザの影響で5日間の活動停止期間を余儀なくされた大院大。「試合感を考えると少し不安」と藤原義三監督。しかし、この試合を一番大事な試合と位置付け「練習明けからとにかく走らせ」(藤原監督)準備した。一方、前節、不安だった攻撃面で狙いを持った得点を決めた事で、大教大・入口豊監督は「失点は計算出来る。攻撃陣の調子をキープしたい」と何かを掴んだ様子。ともに負けられない。

<第2試合> 14:00 Kick off 関西大-大体大

立命大と勝点・得失点差とも並び2位につける関西大。島岡健太監督は「大体大の選手と身体能力を比べたら、ウチの選手一人ひとりには負けてしまう」と大体大を警戒。「自分たちのリズムでどれだけできるかが大事」(島岡監督)と今日の試合に臨む。対する大体大、なかなか上昇気流には乗れないチーム状態だが、北村公紀ヘッドコーチは「やりたいスタイルが見えてき始めたので悲観していない。2週間、コンディションを上手く調整します」と手ごたえを感じていた。

立命館大学 vs 関西大学

同勝ち点の3位、優勝を射程圏にとらえる両チームの直接対決。立命大・福本尚純主将が「前半15分、関大は必ず前から来ると思っていた」と話したように、試合は関西大が攻め、立命大がはね返す展開で始まった。関西大は、持ち前のパスワークに、DFの背後を突くロングボールも交えて立命大を押し込む。しかし12分、FW⑦佐藤悠希がボレーでループ気味に狙い、GK①鈴木彩貴にビッグセーブされた場面以外、決定機は作れない。20分を過ぎると関西大のミスを突く立命大がカウンターを仕掛け、攻守切り替えの早い五分の展開へ。35分、立命大はDF⑯篠原翔のクロスからゴール前になだれ込むが、関西大DF必死の抵抗の前に決め切れない。

後半、立命大MF24加藤恒平、関西大FW⑯金園英学がともにヘッドで狙うが、いずれもGKを脅かせず、その後もシュートで終われない焦れた展開が続く。ともに交代カードを切るが、膠着状態は変わらない。サイドの⑧藤澤典隆をトップ下に移しキープ率を上げた関西大が、セットプレーを活かして惜しいチャンスを迎えるが、後期いまだ無失点の立命大の守備は揺るがなかった。0-0だが、両ゴール前での気迫あふれる攻防など見所の多いナイスゲームだった。

(文：サッカーライター 貞永 晃二)

立命大 0 - 0 関西大

■10月3日(土) 11:30 kick off
@山総合運動公園太陽が丘陸上競技場

同志社大学 vs 大阪学院大学

同 大 大院大

■10月3日(土) 14:00 kick off
@山総合運動公園太陽が丘陸上競技場

■延期後開催詳細■

日程：10月28日(水)
時間：18:00 kick off
会場：鶴見緑地球技場

※新型インフルエンザの影響で
開催延期

※当日は無料で開催いたします。
ぜひ会場でご観戦ください。

びわこ成蹊スポーツ大学 vs 大阪産業大学

後期開幕から2連敗どうしの対戦。決定力の違いが結果となって表れた。

先制したのは大産大。31分にFW⑬西原周平が狙いすましたミドルシュートを突き刺し、先手を奪った。その後カウンターから失点するも、68分にMF⑧浦川祐其のオーバーヘッドで勝ち越し。ジャストミートはしなかったが、前に出ているGKの頭上を越え、ゴールに吸い込まれた。その後は「(びわこ大は)攻めている時のケアが良くない」と櫛引実監督が指摘したように、前がかりになった相手に対し、カウンターで応戦。FW⑨西之宮慎司、MF⑩橘章斗がそれぞれ追加点を挙げ、試合を決めた。攻めこまれた時間帯もあったが、「辛抱してやりきった」と櫛引監督もチームを評価した。

相手のそつのない攻撃に屈したびわこ大。「うまくやられてしまった」と望月聡監督も嘆いた。MF36吉澤春風のゴールで追いついたまではよかったが、逆転弾は奪えず。前がかりになったことで、カウンターの餌食になり突き放されてしまった。望月監督は「これが今のチームの勢い。これから1個でも勝っていききたい」と前を向いた。

(文：UNN関西学生報道連盟 阪西 直登)

びわこ大 1 - 4 大産大

■10月3日(土) 11:30 kick off
@山総合運動公園太陽が丘球技場B

◆得点(アシスト)◆

大産大 31分 13 西原 周平 (9 西之宮 慎司)
びわこ 37分 36 吉澤 春風 (20 澤西 宏典)
大産大 68分 8 浦川 祐基 (7 宮本 健二)
大産大 87分 9 西之宮 慎司
大産大 89分 10 橘 章斗 (14 藤下 恭之)

「関西制覇」へ向け、3連勝を飾りたい関学大。対する京産大は、下位争いの混戦から抜け出すためにも勝ち点3が必須。互いに落とすことのできないゲームだった。

試合序盤は、京産大が試合の流れを握る。関学左サイドの空いたスペースをうまく使い、幾度も関学大ゴールを脅かした。そしてその果敢な攻撃の姿勢から、前半31分にはPKを獲得。だが、FW⑩小笠原侑生が蹴ったボールはバーに阻まれてしまう。この大きなチャンスを京産大が逃すと、流れは関学大に。

後半3分にFW⑨村井匠のヘディングシュートで先制すると、その3分後にはMF⑩阿部浩之のFKの跳ね返りをFW29持田和明が押し込みリードを広げた。その後カウンターからゴールを狙う京産大だったが、小笠原の退場も響き、関学大守備陣を崩すことはできなかった。

3連勝も「厳しい試合だった。」とゲームキャプテンDF④志田野雄一朗。1試合の結果が上位争い・下位争いの順位を左右するだけに、両者の勝利への思いがぶつかり合う激しい試合となった。

(文：UNN関西学生報道連盟 寺島 琴美)

関学大 2 - 0 京産大

■10月3日(土) 14:00 kick off
@山総合運動公園太陽が丘球技場B

◆得点(アシスト)◆
関学大 48分 9 村井 匠 (18 梶川 諒太)
関学大 51分 29 持田 和明 (19 阿部 浩之)

阪南大 2 - 0 大体大

■10月4日(日) 11:30 kick off
@大阪長居第2陸上競技場

◆得点(アシスト)◆
阪南大 56分 14 東 浩史 (6 井手口 正昭)
阪南大 88分 47 中村 雄大(13 細野 元伸)

「上位との勝ち点差も意識している」と言う阪南大の主将⑭東浩史、「残留争いのためにも連勝」と意気込む大体大の攻撃の切り札⑧村田和哉。是が非でも連勝を目指す両者の対戦は、手堅いサッカーで時間が進んだ。

主導権は阪南大にあったように映るが、大体大のスピード豊かなカウンターも冴えていた。しかし互いに決定機はほとんど作れない。阪南大は攻撃の手駒が少ない状態が続いているものの、守備陣はベストに近いメンバー。昨年の鉄壁を思い起こさせるように、後期はまだ失点無し。その要因として1対1に強いDFと、ボランチ⑥井手口正昭の存在がある。特に前節でも圧巻のパフォーマンスを披露した井手口は、この日も抜群の仕事ぶり。自陣では大体大の攻撃の芽を摘み、攻めに絡めば何度もチャンスメイク。中盤を制圧した彼の存在が、徐々に攻撃陣にリズムを与えた。ほぼフリーに近いポジションを取って攻撃を指揮した東が、ドリブル・パス・シュートと自由自在に動き始め、大体大は彼を捕まえられない。そして56分。東から井手口、そして再び東に戻す壁パスが綺麗に通る、東がコースを狙ったシュートを沈める。こうなると大体大は苦しい。前線の選手の強引な突破からシュートまでは至るものの、枠には飛ばず。最後は、阪南のFW47中村雄大が豪快なシュートを決めてトドメを刺す。完全に阪南大が波に乗って来た。

(文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

後期に入って調子が出ない桃山は、松本直也監督が「心身ともにフレッシュな選手を数人入れてみた」と言うように攻撃陣の活性化を意図して試合に臨む。一方、なかなか勝ち点が伸びない大教大の入口豊監督は「守備のメンバーは揃っており大崩れは無いので、後は点を取る」と課題を挙げた。

前半は、桃山大のフレッシュなメンバーが、まさにガムシャラに大教大のゴールに迫る。鮮やかな崩しや手数を掛けた攻撃ではなかったが、FW 52姫田竜太を楔に使い、そこに2列目からなだれ込むように選手が飛び込み、迫力は十分。残念ながらシュートの精度を欠き得点には繋がらなかったものの、桃山が意図した試合内容が続いた。

その勢いが実ったのが57分。大教大のペナルティーエリア手前に転がったボールをGKがクリアするタイミングで複数の選手が、ラグビーで言うチャージに走る。結果、クリアボールは大教大の選手に当たってオウンゴールとなったが、前へ前への勢いがもたらしたゴールとも言えた。

得点力不足もあり、意気消沈したかに見えた大教大だったが、鮮やかに崩して同点に追い付く。83分、DF③大庭慧之がヒールで落とし、そのボールを⑩田中俊一がクロス。ファーで④高垣淳司が折り返し、⑩藤原篤史がシュート。そのボールにエース⑨森原慎之佑が反応してゴールネットを揺らす。交代選手が多く絡んだ、素晴らしいゴールで勝ち点1を手繰り寄せた。(文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ)

桃山大 1 - 1 大教大

■10月4日(日) 14:00 kick off
@大阪長居第2陸上競技場

◆得点(アシスト)◆
桃山大 57分 オウンゴール
大教大 83分 9 森原 慎之佑
(19 藤原 篤史・4 高垣 淳司)